

第 119 回 日本解剖学会総会全国学術集会が

2014 年 3 月 27 日(木)～3 月 29 日(土)に

自治医科大学キャンパスにて開催されます。

当院からは PET センター長 尾辻 秀章 医師が

学術発表致しますので、ご紹介します。

第119回

日本解剖学会総会・全国学術集会

会期
2014年 3月27日(木)～29日(土)
会場
自治医科大学キャンパス

テーマ

Anatomical Science の飛翔

会期 | 2014年 **3月27日(木)** ～ **29日(土)**

会場 | 自治医科大学キャンパス

会頭 | **屋代 隆** (自治医科大学医学部解剖学講座 組織学部門)

副会頭 | **野田 泰子** (自治医科大学医学部解剖学講座 解剖学部門)

演題募集期間 | 2013年 9月10日(火)～11月5日(火)正午まで
終了しました

事前参加期間 | 2013年 9月10日(火)～2014年1月14日(火)
終了しました

[演題名]

肺亜区域枝解剖のテーブル表示の提案：気管支、肺動脈、肺静脈について

[著者氏名] 尾辻秀章¹

江島紀正¹, 三浦幸子², 西本優子², 吉川公彦², 山岡利成³

[著者所属機関名] 1: 西の京病院・PET

2: 奈良医大・放射線科、 3: 京都桂病院・放射線科

[抄録本文]

目的：画像診断に必要な肺構造は気管支 (Br)、肺動脈 (PA)、肺静脈 (PV) である。例えば PA については、従来の解剖名では上行肺動脈と分類されることがあるが、上行肺動脈というグループには様々な variation が含まれており、正確な解剖構造を現しているとは言えない。そこで、我々は数学のグラフ理論を用いた新しい表記法を提案する。

対象・方法：胸部の Dynamic CT で PA と PV を分離描出できた症例の Br, PA, PV の全亜区域枝を、非循環根付有向木を用いて、1本の固有の線分として表現し、分析した。スプレッドのオートフィルターのマクロを補助的に用いて、最終的には片肺ずつをテーブル表示にまとめた。

結果：Br は B1+B2 等の表示を許せば、亜区域枝までを従来の解剖名のみでもただ一つの固有の線分として表示出来た。しかし、PA の一部と PV の大部分では、従来の解剖名のみでは亜区域枝までの表示すら実現出来なかった。

結語：非循環根付有向木は Br, PA, PV 等の循環構造を持たない解剖構造を表現するには優れた方法であり、テーブルを用いた表示法は固有の解剖学的構造を現していると考えられた。しかし、PA や PV には名称の無い領域が存在し、テーブル表示をするためには無名称領域の規則的な命名が必要と考えられた。今後症例数を増やして、更に検討して行きたい。